

クレー射撃に伴い発生する鉛散弾等の完全リサイクル

(社)日本クレー射撃協会では、クレー射撃競技に伴い発生する鉛散弾、ワッズ、クレー標的の残骸及び空薬莢について着眼し、当協会が公認する全国の射撃場85箇所に対して、これらを極力回収してリサイクルするよう推進しております。

鉛問題を一過性のものと捉えず、鉛散弾等を完全リサイクルすることが、これからの永きに渡りクレー射撃競技が実社会に受け入れられ、また共存していく重要なポイントであると自負しております。

クレー射撃用装弾(写真1参照)は、次の図1のように構成されています。



写真1: クレー射撃用装弾

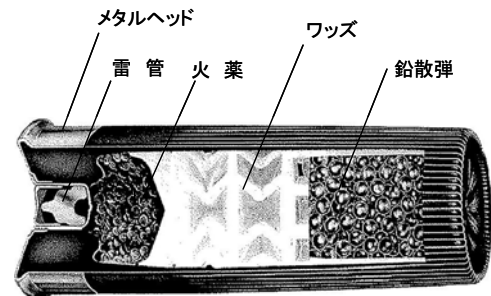


図1: クレー射撃用装弾断面図

図2はトラップ種目ですが、クレー射撃競技に伴い、鉛散弾・ワッズ・クレー標的の残骸が射面へ飛散します。また、発射に伴い火薬(パウダー)は燃焼して無くなり、射手の手元には、中身(鉛散弾とワッズ)が無くなった空の薬莢のみが残ります。

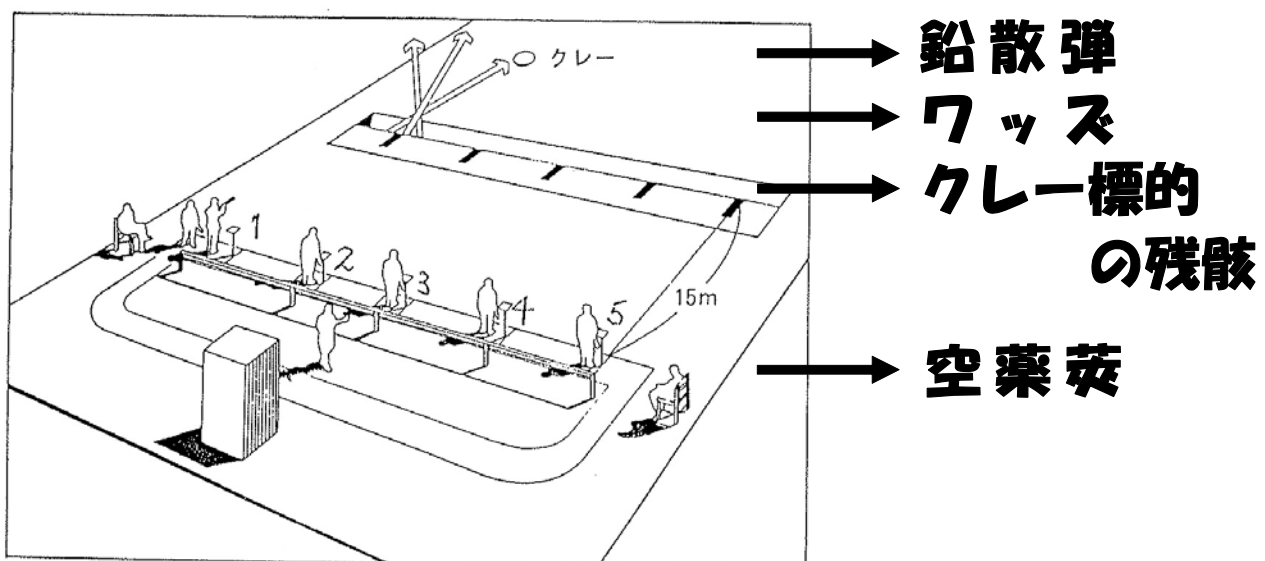


図2: クレー射撃競技(トラップ)

図3: 各種排出物の主な原料

鉛散弾 : 鉛
 ワッズ : プラスチック
 クレー標的 : タール、ピッチ
 空薬莢 : プラスチック

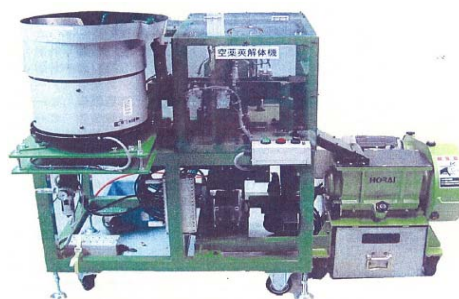
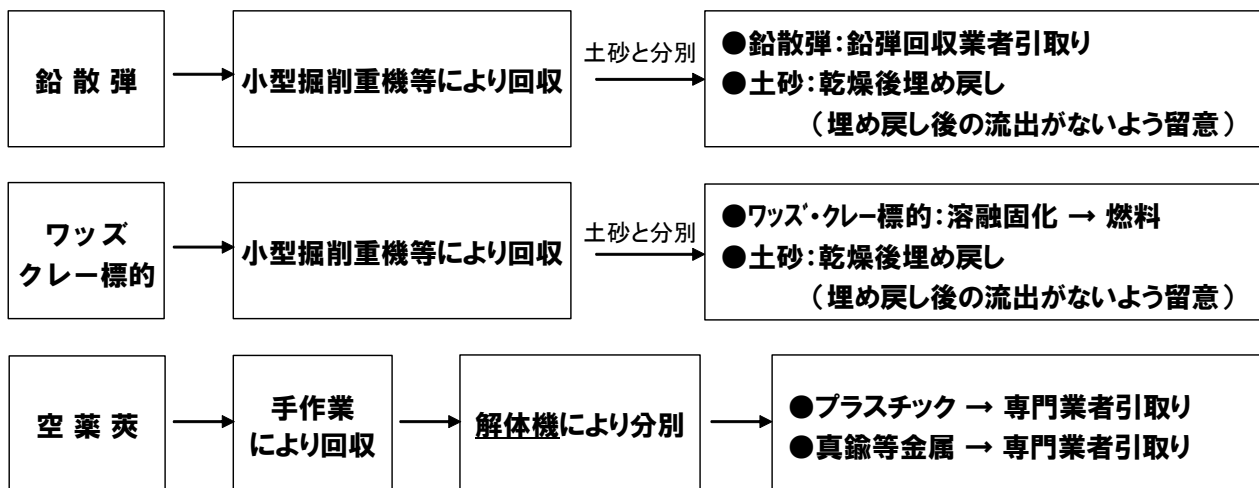


写真2: 空薬莢解体機の例

クレー射撃競技に伴い発生する前述の排出物（鉛散弾、ワッズ、クレー標的の残骸、空薬莢）の原料は図3の通りであり、これらの排出物を有効に再利用（リサイクル）するため、再利用の流れを次の通りとしました。



* 写真2参照

前述の再利用（リサイクル方法）により、射撃場からの排出物（鉛散弾、ワッズ、クレー標的の残骸、空薬莢等）の総量を格段に低減することができ、且つ、僅かながらも有償にて専門業者が資源を引き取るため、射撃場にとっても運営費の低減を図ることが可能となります。

この完全リサイクルに関する総論は、当協会より、世界各国280の連盟・協会が加盟しているISSF（国際スポーツ射撃連盟）へ提言申し上げ、ISSFを通じて世界各国にて検討・採用されることを願っております。

平成19年1月26日

社団法人 日本クレー射撃協会

